



謹賀新年

平成26年 元旦



昨年の出来事で印象に残った事は、何と言っても、地元・東北楽天イーグルスが13年日本シリーズを制覇。悲願の日本一を達成して、被災地東北にとどまらず、日本中に多くの感動を与えてくれたことでしょう。子供の頃から野球大好きな巨人ファンである私は、地元楽天の善戦があつて纏れても、結果は巨人が勝利し二連覇達成となれば良いと思っていました。想定外の展開は私と同姓の甥っ子みみたいな「楽天・美馬学投手」が大活躍をして、全国に「美馬」の名を轟かしてくれたことです。終わってみれば巨人ファンでも、13年は楽天優勝で良かったのではと思われる、盛り上りのあつた記憶に残るシーズンでした。地元ということであれば、仙台七夕まつりの開催中、飾付がされたアーケードのなかを客足がまだ少ない朝の通勤時間帯に通ると、ご当地ソングの「青葉城恋歌」や「ミス仙台」の曲が流れています。この「ミス仙台」を唄っているのが、昨年11月に亡くなった、昭和の歌謡史に残るといわれる大歌手・島倉千代子（享年75歳）です。少年時代から、ラジオ・テレビで聴いてきたあの彼女の歌が仙台に来て、七夕まつりで聴けるとは思ってもいませんでした。75歳のみつわ会世代、この訃報ニュースを何故か身近な人の訃報のような感じを受けました。

東北は昨年、震災、スーパー台風、竜巻等で大きな自然災害を受けることもなく、幸いにも平穏であつたので、下世話な話となりました。今年も昨年同様大きな災害の発生がないことを祈ります。また、お気楽な話になりますが、今年は「サッカーワールドカップ2014のベスト8入り」「東北楽天に続いて、高校野球優勝旗も悲願の東北へ」「若・貴以来の日本人横綱誕生」も何とか実現されたら良いですね。是非とも皆で応援しましょう。今年も、みつわ会東北支部の充実と、会員の皆様が何事もなく「普通」の暮らしが出来ることをお祈りして、新年の挨拶といたします。

みつわ会東北支部
支部長 美馬五郎

平成 25 年 忘年会 12 月 18 日 於 「千駒」



今年も又、年末を迎えて、師走の寒波をものともせず、恒例の忘年会に 21 名の会員が元気に出揃いました。店は酒造会社の直営で、日本酒良し、料理良しで、宴会は、ご馳走を堪能しつつ、この 1 年の尽きない話題で会話が弾みました。主だった人にこの 1 年を振り返ってもらいましたが、「大方、平穩に過ごすことが出来た。」とのことで、皆、良いお年とりができたようです。

☆ 催物のご案内 ☆

- 1、 定例会（新年会）
 日時：平成 26 年 1 月 23 日（木） 12 時～
 会場：しゃぶ禅 会費：2,500 円（一寸、飲んで、新年のお祝い）

- 2、 日新火災 OG の集い（昼食会）
 日時：平成 26 年 2 月 25 日（火） 12 時～
 会場：露庵うめ治（前回と同じ） ☎ 050-5834-6510
 青葉区中央 1-6-23 鹿島ビル 1F（広瀬通り沿いパレスへいあん向かい）
 （女性会員の皆様には「集いのご案内」と出欠回答葉書ご送付します。）

12 月 18 日幹事会・・・報告

- ① 忘年会、日新火災 OG の集いの取り組み状況の確認。
- ② 1 月～3 月のスケジュールと来期 26 年度の準備を確認

1 月～3 月（確定済）行事

支部	1 月 9 日（木）	幹事会	支部	3 月 11 日（火）	幹事会
	1 月 23 日（木）	定例会（新年会）		3 月 27 日（木）	定例会（納会）
	2 月 6 日（木）	幹事会	みち	1 月 11 日（土）	麻雀大会
	2 月 25 日（火）	日新 OG の集い	のく	1 月 24 日（金）	新春セミナー

みつわ会 9 代東北支部長川口直樹さんが一昨年の 12 月に亡くなられて、1 年が経ちました。その話題から、星利夫さんが、5～6 年前に自分が高校の友人達に多賀城周辺を案内するにあたり、通り一遍でなく歴史的背景を詳しく知りたく、博識の川口さんに尋ねたところ、「多賀城考」という文章を私のために川口さんが書いてくれました。内容豊かな名文なので、一周忌を期に「遺稿」として皆で川口さんの筆致を懐かしんだら良いのではと、本号に掲載しました。星さんも多賀城散策し、一句詠みました。「雉鳴くや古府庁暮るる樹の王者」

＜多賀城考＞ 川口直樹

聖 武天皇の御代、724 年に大野東人^{おおのあずまひと}が多賀柵を設置して以来、足利幕府によって多賀城が国府の使命を終えるまでの約 600 年間、多賀城は東北の政治の中心であり続けた。多賀城は昭和 35 年 本格的発掘調査が行われるまで、朽ちるにまかせた、忘れられた廃墟であった。

古代、陸奥以北は大和政権の支配の及ばぬ所、異なる文化の民族の住むところ、多賀城を中心に幾度かの争乱、鎮圧、慰撫を繰り返し、やがて日本が統一されていく。

しかし東北が、異人種が住むところという印象は江戸中期まで持ち越され、今なお、東北弁という言葉に軽侮が含まれているとみるのは、私の思い過ごしだろうか？

多賀城南門の近くに古ぼけた石碑がある。江戸の初め頃、百姓が土中から掘り出したというが、これが一躍世間の話題を集め、かの松尾芭蕉もこれを見て感涙に咽んだという。何故、話題を呼んだかと言えば、平安から鎌倉時代まで壺の碑（つぼのいしづみ）として有名な歌枕があり、それが見つかったとされたからである。

西行法師も源頼朝も歌に残している。これが果して壺の碑かどうか真偽定かでないが、文献では一応そうでないかとされている。

この碑の真贋論争はその記載内容にまで及び、最近では壺の碑かどうかは兎も角、本物の当時の碑として認知された。その内容はと言えば、この碑を基点とした里程計算が不適ということである。最初の 5 行に多賀城から京：1500 里、蝦夷国：120 里、常陸国 412 里、下野国 274 里、靺鞨国：3000 里とある。常陸国界を勿来関、下野国界を白河関とすれば、当時の官道からして、ほぼ等距離でなければおかしいという訳である。

邪馬台国論争の小型版のような謎解きが必要になる。もう一つ面白いのは靺鞨国（まっかつこく）が出てくることだ。

このような里程があるということは陸奥国に大勢の靺鞨人（肅慎：みしはせ）が沿海州から渡来し定住していたと考えられる。 ★次頁へ続く





渡来人は西日本の専売のように言われるが、ご当地にも大陸から相当の渡来があったと見るべきで、その中には紅毛、碧癌のコーカソイトも混じっていたとすれば、秋田美人の色白もあながち、気候、風土のせいばかりでないかもしれない。

多賀城は畿内政府から派遣された貴族、官人が頭となって護衛の兵士と、更に関東、東北南部

の朝鮮渡来の入植者、服属した俘囚（ふしゅう）を屯田兵として大挙押し寄せて来たことだろう。

これらの支配者は当初は柵内にあつて自給自足体制を作り上げ、次第に周囲の蝦夷を慰撫しつつ、律令体制の中に組み込み、徴税や兵役を課していったものと考えられる。この辺りの蝦夷までが、敏達天皇の頃（6世紀後半）に既に畿内政権に屈服し朝貢していた熟蝦夷（にぎえみし）と見られ、比較的穏やかに、外周の占領統治に従ったのだろう。ただ穏やかといっても、面従腹背ということもある。何故かといえば、当時畿内政府は占領地に己の武威を原住民に知らしむべく豪壮な神社を作ることが西日本、関東、東海では通例であるようにここ多賀城ではそれが希薄に感じられるからだ。

多賀城址北門から出て、旧仙塩街道を塩釜方面に 300mほど行くと多賀神社がある。村の御堂より小さく祭神さえ定かでない。破れ納屋といったところだ。これが何と、平安時代に由緒、格式ある神社として認定された延喜式内社なのだから驚く。

我が初詣の愛宕神社とて式内社ではなく、神官にしてみれば涎が出るほど羨ましいだろう。要は氏子がいないということか。

更に不思議なことに、この神社から更に 500m程行ったところに荒吐神社（あらはばき）がある。又は荒脛巾神社、この神社は蝦夷の神様といわれるが、権威ある筋からは勿論見向きもされない。大体名前がおどろおどろしい。

路地から畠を突っ切った民家の庭の奥に隠れるように鎮座している。社に扁額がかかり、ただ、道祖神とだけ書いてある。壇には供えものとして例の金精様、足型、足袋等が上がっている。脇の石碑には空式雷神、風神、雷神の名が刻んである。脇の末社と覚しきものに養蚕神社がある。更に馬頭観音があることから、これはきっと「オシラサマ」を祭っているのではないかと考えられる。

遮光器土偶が出土するところは何故かオシラサマ信仰と重なるという研究者もいるが、これも蝦夷の神社なのだろうか？ 貴方は縄文人の末裔と思いますか、それとも渡来人の末裔と思いますかと冗談半分に問いかけると大方の人は縄文人ですよと返答が来る。三内丸山遺跡が発掘されて縄文人も地位が向上したかに見えたが、蝦夷ということになると、腰が引けてしまう。多賀城址ほど、その事を考えさせるところはない。

★完★